

こう ほう
広 報

令和3年8月1日発行

vol.

58

しよかん

しゃがいふくし ほうじん うりゅうえん
社会福祉法人 雨竜園

しょう しゃしえんしせつ うりゅうちようしよかん さと
障がい者支援施設 雨竜町暑寒の里

せいかつかい こ じ ぼうしよ
生活介護事業所 まい夢

しゅうろうけいぞくし えん じ ぼうしよ
就労継続支援事業所 み実の里

きょうどうせいかつえんしよ じ ぼうしよ
共同生活援助事業所 ジョイン

そうだん し えん じ ぼうしよ
相談支援事業所 さかえ

にっちゅう サービス しえんがた しょうかん さと
日中サービス支援型グループホーム 暑寒の里 いろどり

〒078-2600 北海道雨竜郡雨竜町字尾白利加94番地の193 TEL0125-77-2231 TEL/FAX0125-77-2232

e-mail : syokannosato@cello.ocn.ne.jp

HP <http://shokannosato.jp>



facebookもご覧ください！

皆さんこんにちは、今年三月より滝川市に
日中サービス支援型グループホーム 暑寒の
里 いろいろりが開設いたしました。今までの
グループホームでは日中は事業所などに通い
夜の生活の場でありましたグループホームで
すが、この日中サービス支援型では日中もグ
ループホームで活動をして過ごす場所として
開設いたしました。

障がい者の中には、支援があれば自立した
生活を送ることができ、地域で共同生活を行
う事に支障のない方が多くいらっしゃいま
す。そのような方々に対して、自立へのサポ
ートと、安心して暮らせる場所を提供してい
くことがグループホームの役割となります。

日中、課題に取り組んでみたり、体力づく
りを行ったり、季節の行事を行うことでその
人なりの生活を支えています。

いろいろりの名前にちなんで色とりどりの利
用者さんの個性を大切にして支援して行こう
とスタッフ一同一丸となつて行っています。

今もコロナ禍の中、先向きが見えない不安
を抱え、誰もが制限される中、たくさんの事
を我慢して日々を過ごしています。そんな閉
塞感の中でも利用者さんの健康を守り安心し
て暮らすことをサポートすることが私たちの
使命であることを胸に刻み取り組んでいき、
利用者、働く人、保護者の皆さんが集まって
くるアットホームなグループホームを目指し
ていきたいと考えています。

日中サービス支援型グループホーム
暑寒の里 いろいろり

所長 山下 泰紀

4/20 ドライブ

晴天の中、砂川の北光公園へドライブに行
きました。
時期が少し早かった為、まだ何も咲いてい
ませんが、皆さん楽しんでいました。



4/25 たんじょうかい 誕生会

いろいろりで3月4月誕生会として、会食を
行いました。
いろいろりでは初めての誕生会で、今回はピ
ザをテイクアウトし皆さんで頂いています。



5/11 こども ひ 子供の日

時期は少し遅くなりましたが、端午の
節句のお祝いをしています。
鯉のぼりの着入れ、新聞紙で兜を作り、
鯉のぼりパンケーキを作り食べています。



暑寒の里グループホーム

4/13・5/11 がいしゅつ 外出

かいもの しょくじ をし、その後ドライブに行きました。
 利用者さんは久しぶりの外出で楽しんできています。



5/31 ほうさくき がんさい 豊作祈願祭

れいねん たう 例年は田植えでしたが、今年は豊作祈願祭として紅白に分
 かれ歌合戦を行いました。
 利用者さんは仮装して歌い、楽しく過ごしています。



6/22 SYOKANオリンピック

利用者さんはアーチェリー、三段跳び、円盤投げを競いました。
 職員は騎馬戦を行いました。昼食はお弁当を食べています。



広報あすなろ

暑寒の里保護者会

会長 坂井 吉次

会員の皆様におかれましては益々ご健勝の事とお喜び申し上げます。

日頃より、本会の活動にご理解ご協力をいただき、深く感謝申し上げます。ありがとうございます。

さて、この度の役員改選で会長に選任されました、坂井です。

保護者会の皆様には何かにつけて、ご苦労をおかけする事が多くあると思いますが、利用者のため役員一同微力ではございますが、誠心誠意努力して参りたいと思っておりますので、今後とも従前同様一層のご指導ご支援を賜りますようお願い申し上げます。新型コロナウイルス感染から、約一年半いまだ収束していない状況です。

何度も繰り返される「まん延防止等による重点措置」や「緊急事態宣言」で利用者も保護者もかなりのストレスではなかったかと思っております。

自粛自粛に、そろそろ限界がきているのではないかと思いますが、ともあれこれまで頑張ったお陰で一人の感染者もでなかったことが何よりでした。

これもひとえにご苦労された職員の皆様、関係機関皆様方のおかげです。

心より感謝申し上げます。

これからは利用者の一日でもはやいワクチン接種が受けられる事を願っています。



ながかった8年間、ご協力に感謝

事業活動として、毎月の五日と二十日をボランティアの日と位置づけ、自由な意思で、仕組みや発想にとらわれず何ができるかを皆で考えた結果、雑巾縫いや清拭き、草刈り、花壇整備、施設内の窓拭き等でした。

利用者の高齢化が進み車椅子の取得をボランティア活動に加え平成二十六年から、「プルタブを集めて、車椅子を」合言葉に会員に皆様にご協力をお願いを致しました。

取得方法等を関係機関に問い合わせたところ、車椅子一台取るのに七五〇kg必要とのこと、気の遠くなるような話でした。

購入すれば簡単な事ですがそれでは意味がないとのことから、とにかく諦めずに会員の皆様に声をかけ協力していただきながら、何とか今回の総会資料にあるような車椅子を得ることが出来ました。

保護者の皆様には、ご苦労をおかけいたしました事に、心よりお礼申し上げます。

2021年ほっと33号 2021年度総会

二〇一九年末から広がった新型コロナウイルスの流行は、私達の生活を変えてしまいました。入所施設にいる本人と会えない、言葉を交わすこともできないなど、これまで想像もしなかった生活になった方も多い事でしょう。もちろん、一緒に生活される方もマスクや外出の自粛など、多くの制限を受けておられると思います。感染症による生活の変化

は私達に何を伝えようとしているのでしょうか。

地球温暖化による環境の変化から新しい感染症が発生し、大規模な災害が起こりやすくなると言われます。一〇年前の東日本大震災など、地球が警鐘鳴らしているのではないかと思うことがあります。アメリカの先住民のことはこのようなものがあります。「最後の木が枯れ、川が汚染され、最後の魚がつかえられてはじめて、人間はお金を食べる事ができないことに気がつくものだ」

現状を見ないようにし、考える事を止め、安易な方に流れていくとしたら、私達は大きなしっぺ返しを受けるのではないかと、そんなことを思います。子どもや家族と会えない時間に私達家族が何をすべきなのでしょう。

施設事業所を利用する子供や家族の、安心安全で心豊かな生活とは何か、どのように施設事業者側と環境を整えていくのかを考えて、家族会が強くなることも必要でないかと思っております。

道家連の活動、地区家族会連合会と各家族会の活動を支え、利用者のくらしをより良いものにしていくために続かなくてはなりません。この一年間にも子供を思いながら亡くなった親の方もおられます。家族会として互いに支え合って活動することが、親亡き後の心配を一つでもなくすることに繋がるとは思いません。

新型コロナウイルスは、まだまだ流行を続け、以前の生活様式に戻るのに時間がかかると思っています。しかし、私達はできることをし、つながること続けましょう。

北海道知的障がい児・者家族会
連合会 会長 安田由美